

●ウルトリックス (ドイツ)

ULTRIX Parvola

86

ベスト・ポケット・コダック以来、ドイツでもイギリスでも、この4×65判8枚撮りのベストフィルム用カメラがいろいろ作られました。乾板時代をロールフィルム時代に移行させたのはこれらのカメラの出現によるとさえいわれています。そして、ベスト・コダック型からフォールディング型になり、ゲルツのテナックス、イカのイカレット、コンテツサのルックス・ピコレット、エルネマンのボブなどが現れ、嗜好もこのほうに移ったために、コダックもB型、III型などを発表して一九三六年にはV P K (ベスト・ポケット・コダックの略称) の製造をやめています。

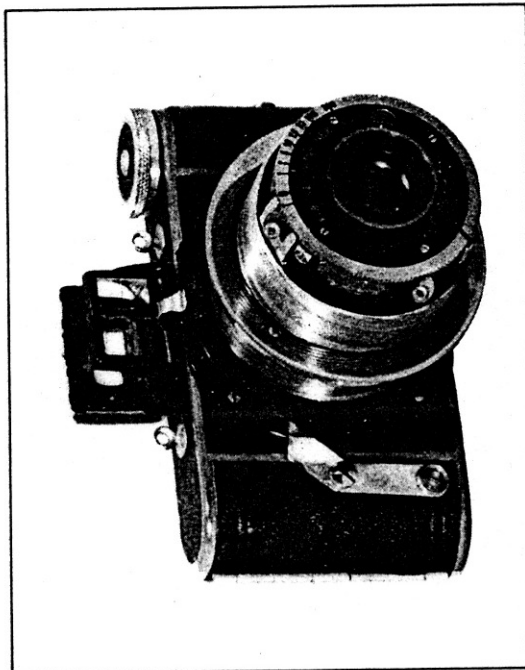
こうした動きの中であって、まったく別の考えとデザインで作られたのがウルトリックスです。イハゲはツァイス・イコン (一九二五年) 以前のドイツのカメラメーカーの中では最大の会社で、企業合理化によるツァイス・イコンに参画せず、そのまま残って、一九三六年には世界で最初の35判一眼レフレックスとしてエキザクタを發表するなど、なかなかユニークなところがありますが、ウルトリックスも他に例のないカメラでした。

乾板を使わず、金属チェーンの直進ヘリコイドを代用させて、これを二段の二重チェーンにしていますから、ねじこむとカメラボディの前面にシャッターとレンズだけが出づる姿になります。撮影に当たってはヘリコイドを回転させて、ボディ側のストッパーによって止まるまで繰り出し、イ

ンフ以上のときはこのストッパーを外して、さらに繰り出せば1/1000の撮影も可能です。

また、反射ファインダーをつけず、光学透視ファインダーだけにしています。一九二八年ごろの製品です。そのかつちりした工作と、ボディの斬新さが買われて、ある数のファンを持ったカメラですが、他社がこれを真似なかつたのは、スプリングカメラのように、ボタンを押すとほとんど飛び出すのではなく、撮影操作の面倒なことと、カメラ全体がかなり重いなどの理由によるものでしょう。ヘリコイドが露出しているのも、海岸などでは、これに砂がつきやすくこれも不評の原因でした。

レンズはイハゲ、テツサーその他、シャッターは主としてコンパーがつけられています。レンズの焦点距離はV P Kが84ミリ、その他のベスト判はほとんど75ミリですが、ウルトリックスは70ミリですから、やや広角です。



87